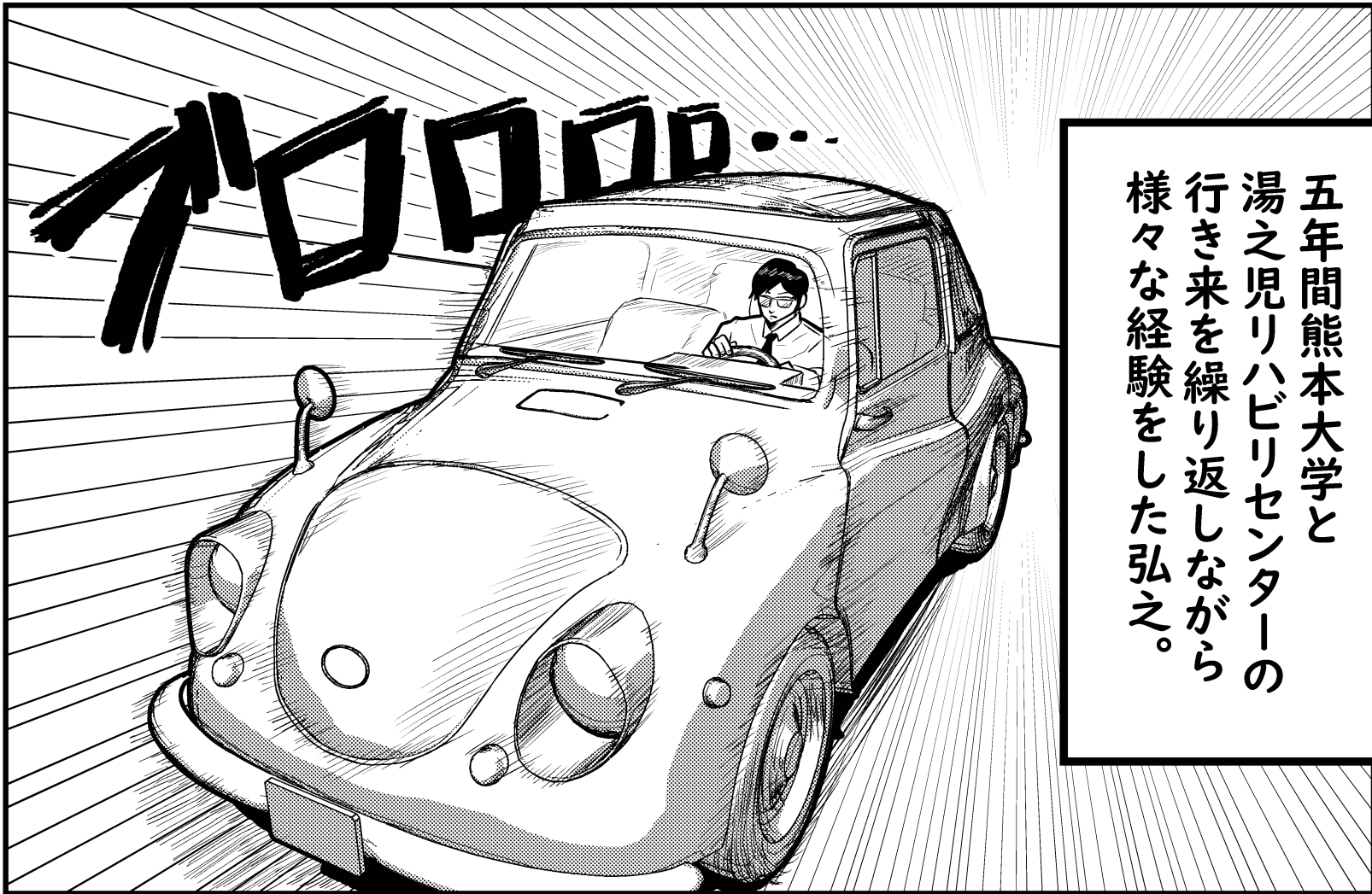


第四章

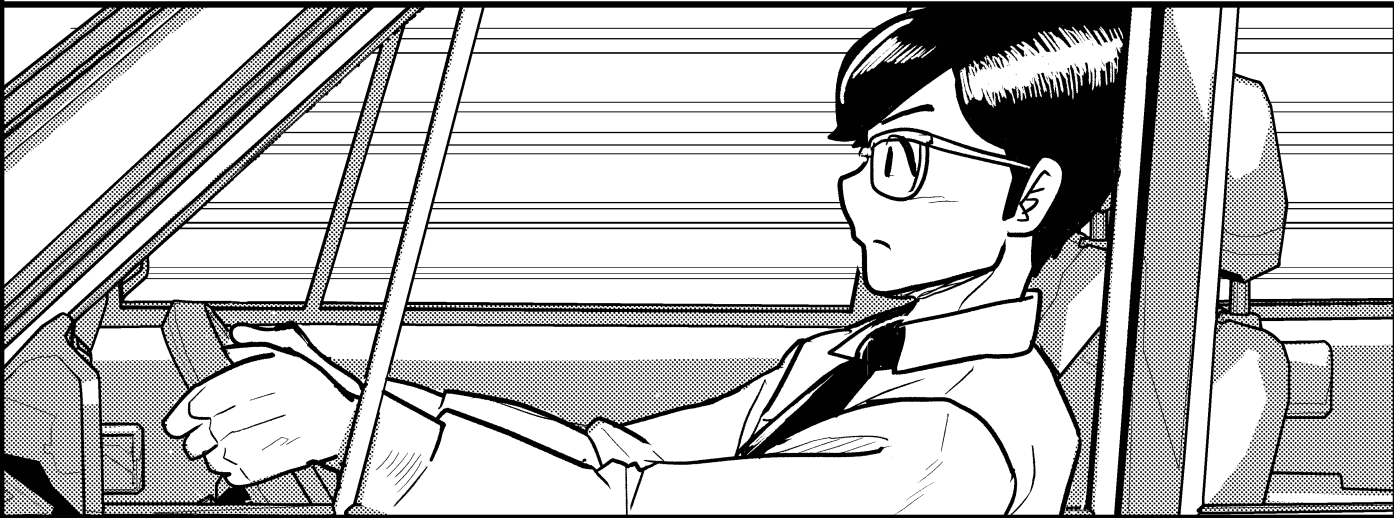
スペンチャリストとの出会い





五年間熊本大学と
湯之見リハビリセンターの
行き来を繰り返しながら
様々な経験をした弘之。

医療人としてかなりの
成長を遂げましたが、

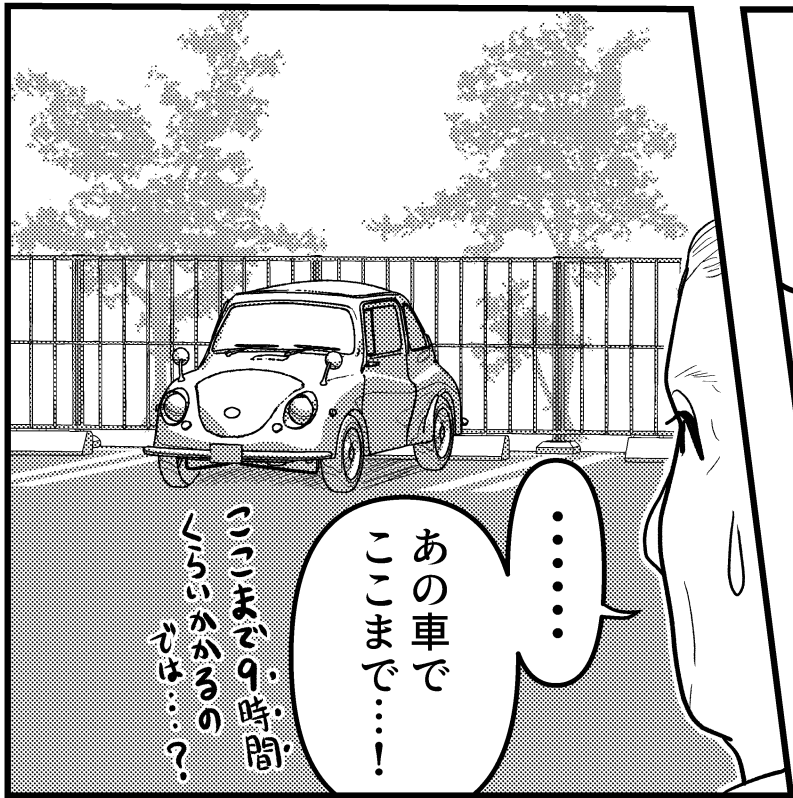


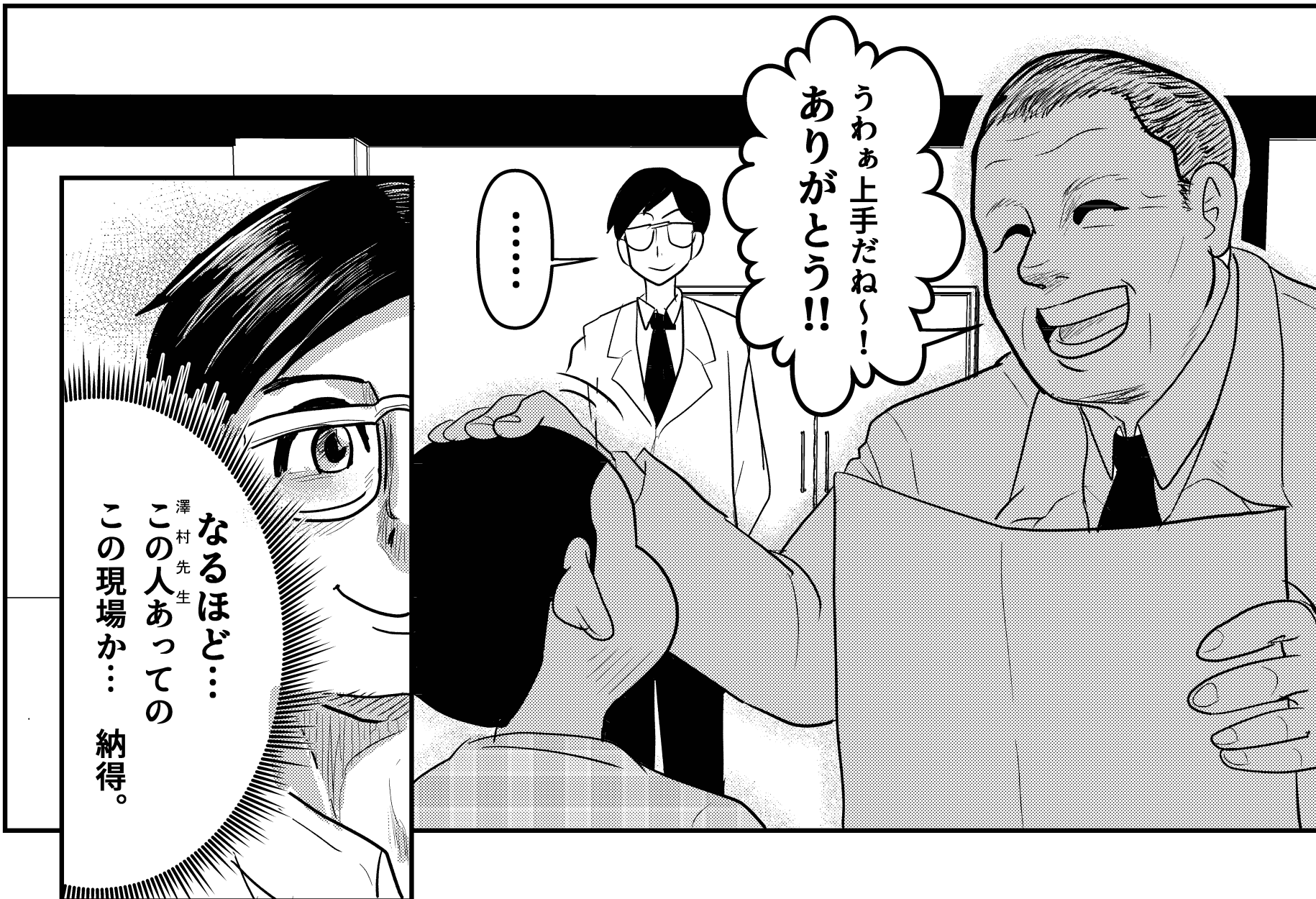
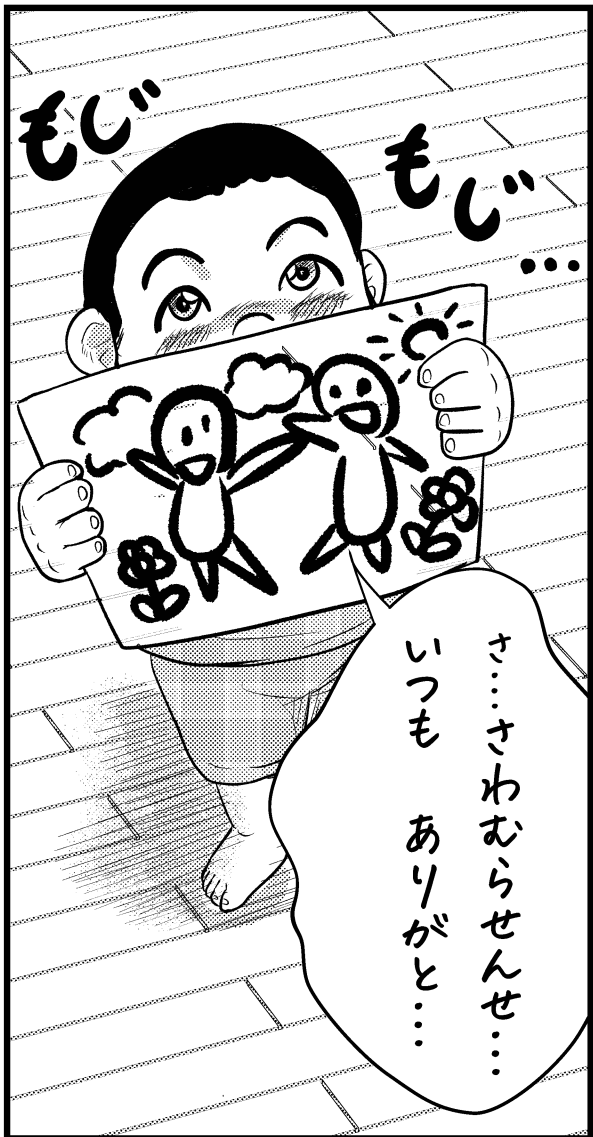
ここから更に弘之の
リハビリに対する考えと
義肢技術に影響を与える
スペシヤルな人物との
出会いがあります。

熊本大学――



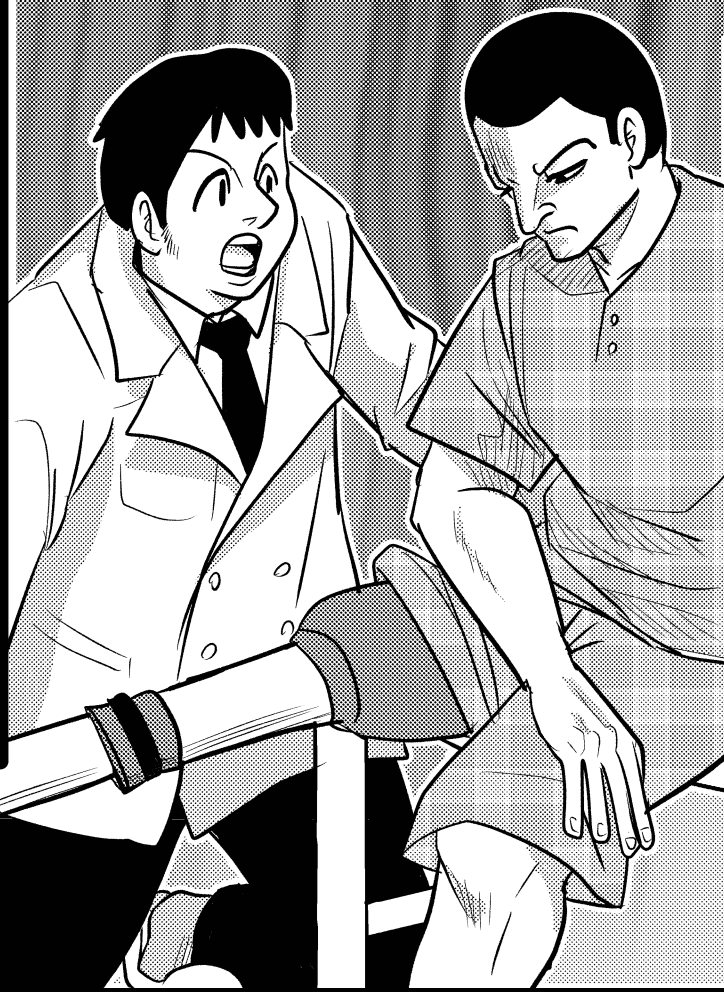






この当時、リハビリに対する考え方が今と少し違うところがありました。

受傷してすぐに訓練を始めてできるだけ障害を残さないようにする今のリハビリと違い、



「後治療」と呼ばれる当時のリハビリは、手術や事故でのキズが治り症状が固定してから訓練を開始する…というパターンがほとんどでした。

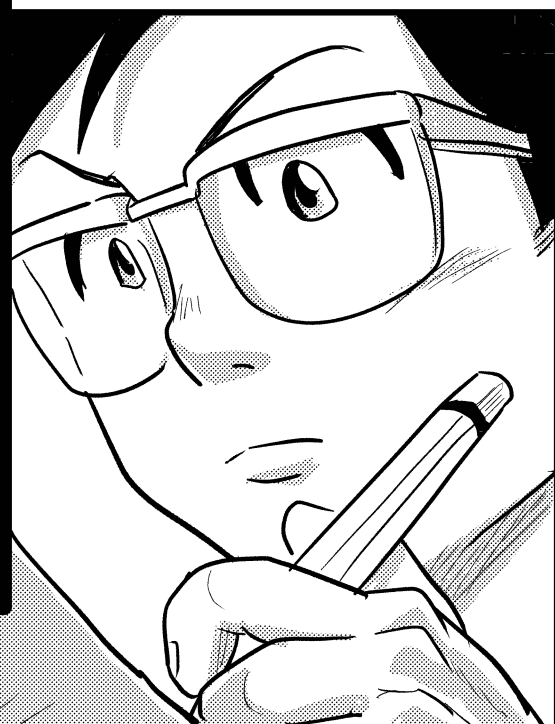
そのため、長期間身体を動かさないので、筋肉量が減り、筋肉だけでなく関節の機能も十分に回復しないままになってしまいう発症前の生活にはなかなか戻れないという患者さんが多くいました。



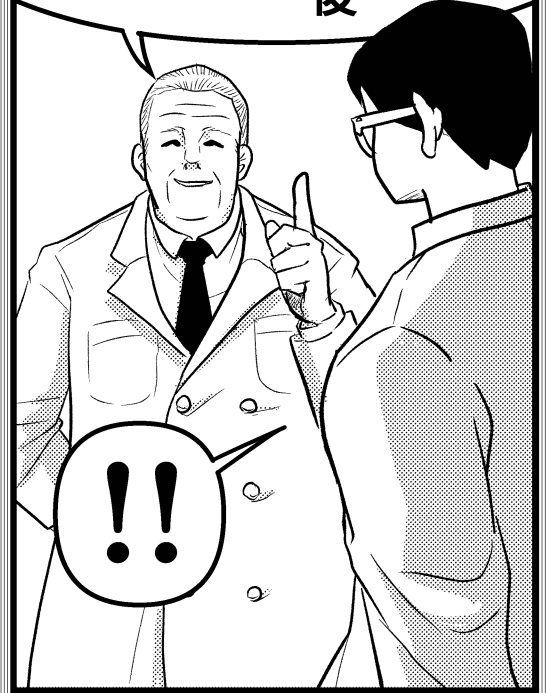
ここから澤村先生の下で多くのことを学んでいく弘之。



澤村先生の義手・義足の技術が現代のリハビリにどう繋がってゆくのか…もう少し見てみましょう。



米満先生、君に「切断術直後義肢装着」という技法を教えるね



切断術直後義肢装着とは――



①ギプス包帯で切断端の「型」を取ります



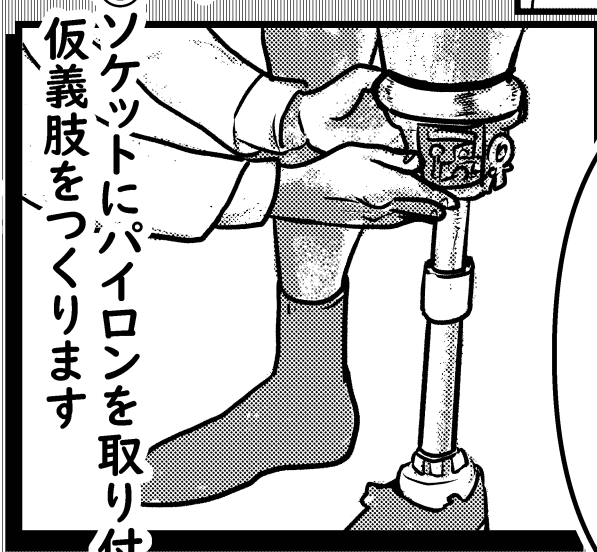
②型からギプスの「ソケット」を作ります

これは切断手術直後に手術台上でギプスソケットを装着させて――

※切断後の残された脚の部分である「断端(だんたん)」を、適切に収めて義足に力を伝えるための重要な部分です。



④完成させた仮義足でリハビリを開始させます



③ソケットにパイロンを取り付け、仮義足をつくります

これに予め用意したパイロン※を主とする義足部品を取り付けてリハビリを早期開始させる方法です。

※金属のパーツを組み合わせてつくる、人間の「骨格」にあたる部分のこと



なるほど……！
早期にリハビリに取り組むことができるので、日常生活に戻れる時間が通常の手術と比べて圧倒的に早くなりますね！

その通り、患者さんにストレスかけないことがリハビリにおいて大事ですからね。



この方法はこれからの切断手術直後において主流になっってくるはずですよ。



ガチャ

田中さん！
調子はどうですか？

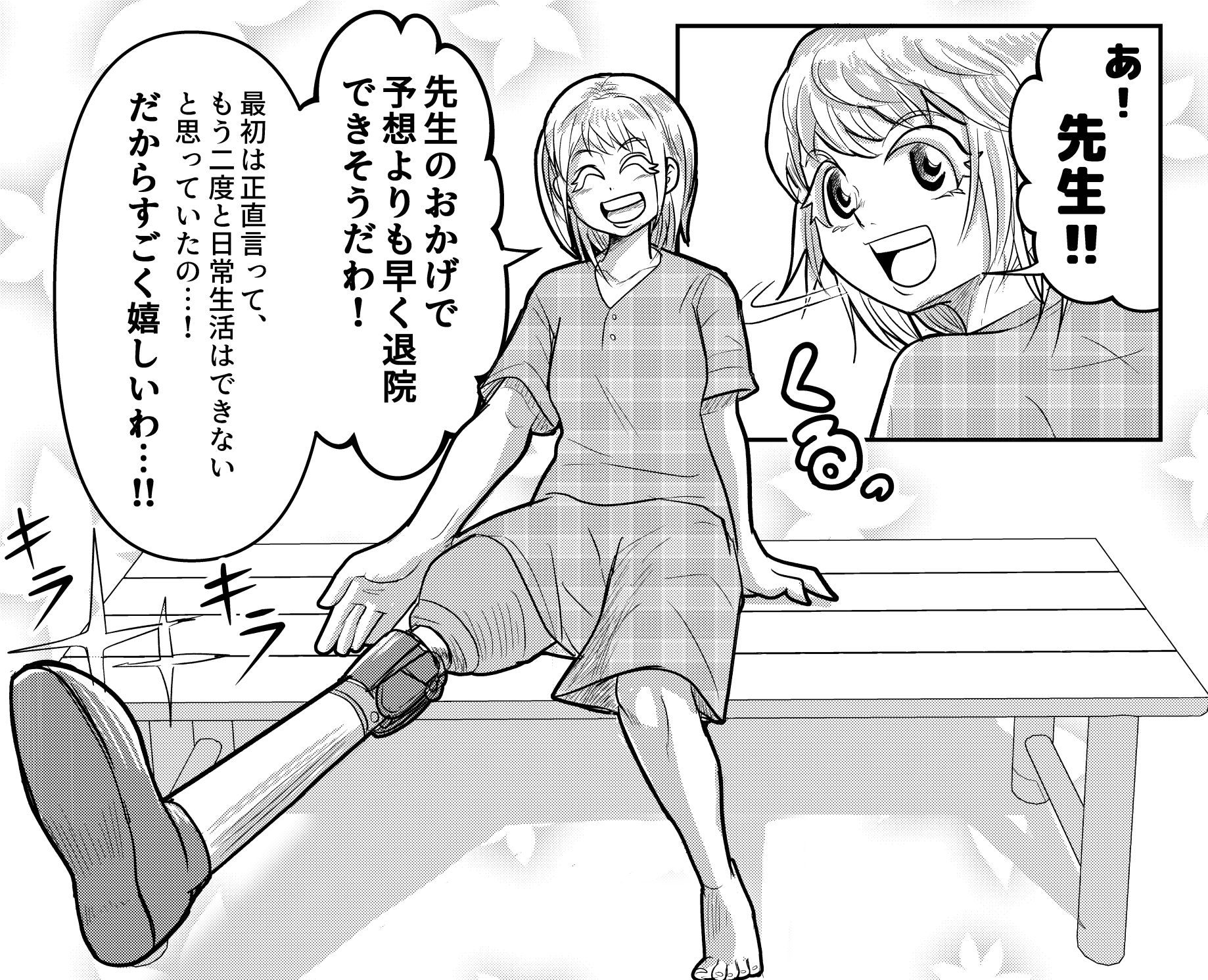


カツ

カツ

カツ

先日切断術後、義肢装着を
行った患者さんの様子を
見に行ってみましょうか



あ！
先生！！

くるっ

先生のおかげで
予想よりも早く退院
できそうだわ！

最初は正直言って、
もう二度と日常生活はできない
と思っていたの……！
だからすごく嬉しいわ……！！

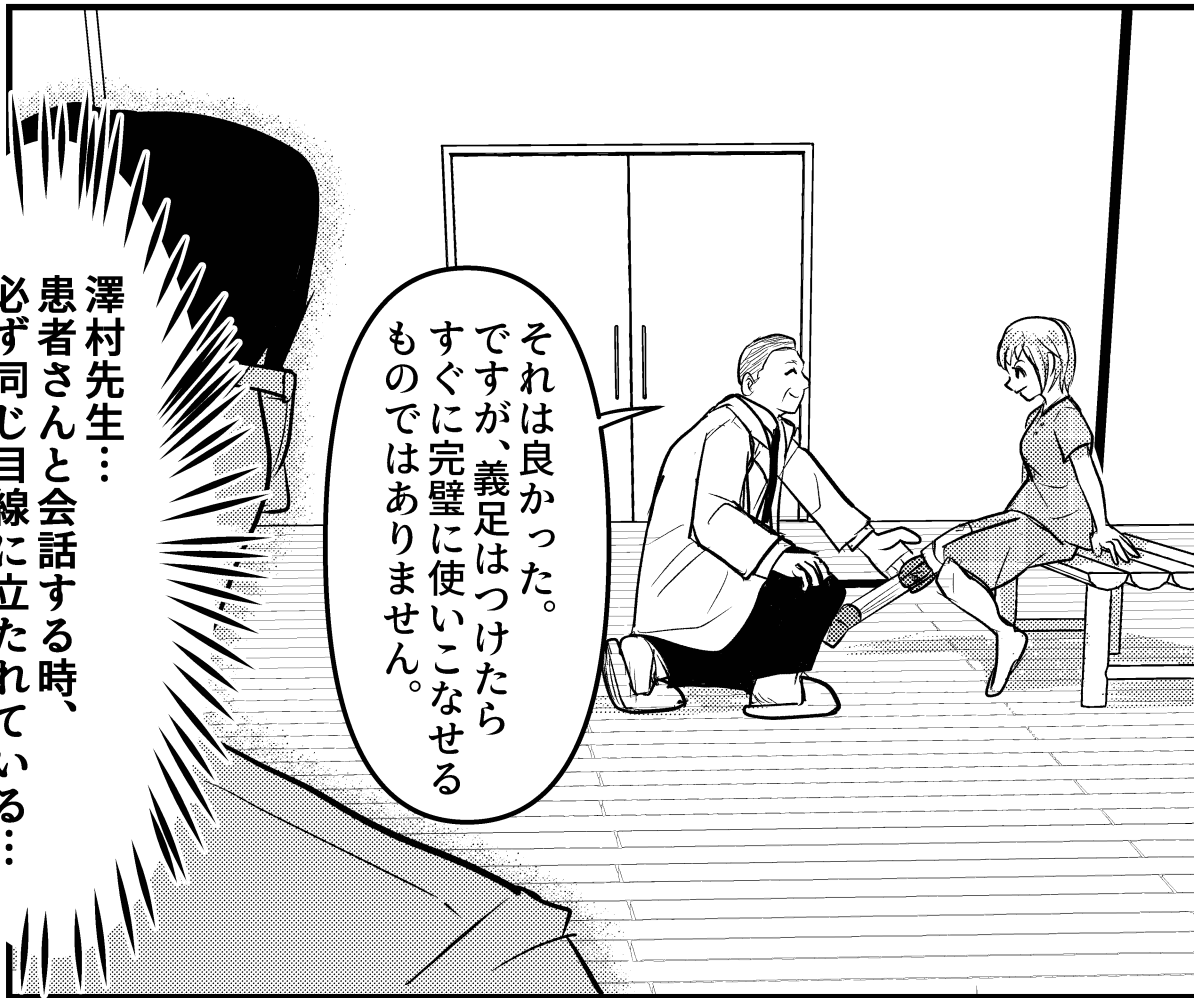
キラ
キラ



ここでもう少し時間をかけて「自分の足」にしていきたいと思います！

ハイッ！

澤村先生…
患者さんと会話する時、
必ず同じ目線に立たれている…



それは良かった。
ですが、義足はつけたら
すぐに完璧に使いこなせる
ものではありません。



うん！

私が目指す
“理想の医者”は
この方だ！！



調子は
どうですか？

相手が車椅子になっても
立ったままにはならず、
しゃがんで会話されている…
常に目線を合わせているから、
患者さんも同じ立場として
心を開いて会話ができるんだ！

澤村先生は
技術だけ
じゃない！
人間性も本当に
素晴らしい
お方だ！！



作者

ノゾエ タカフミ
NOZOETAKAFUMI

熊本県を中心に活動する
漫画家・イラストレーター。

魅力ある歴史を伝える「漫画」や
親しみやすい「キャラクター」
など：幅広い分野で制作活動を
行っております。

子どもが2024年1月に
生まれ、パパとしても現在
活躍中。



【ノゾエ タカフミwebサイト】

<https://www.nozotown.com/>